



TITLE:

有限温度におけるOne-loop
Effective Potentialの一般公式(基研
研究会「熱現象を扱う場の理論と
その応用」,研究会報告)

AUTHOR(S):

松尾, 直樹

CITATION:

松尾, 直樹. 有限温度におけるOne-loop Effective Potentialの一般公式(基研研究会「熱現象を扱う場の理論とその応用」,研究会報告). 物性研究 1991, 55(4): 349-350

ISSUE DATE:

1991-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/94399>

RIGHT:

有限温度における One-loop Effective Potential の一般式

阪大・理 松尾 直樹

物性, 宇宙論, 素粒子論の世界において, 対称性の破れにともなう相転移現象は 最も興味を引く研究テーマのひとつである. この相転移 (特に量子効果の影響) を調べるにあたって, 非常に重要な量が有効ポテンシャル (free energy) であり, これについて詳細な解析を行なうことによって 現象の仕組みが明確になる.

有効ポテンシャルには, 外場として ベクトル場や曲がった背景時空の影響を取り入れることが容易である (DeWitt-Schwinger の方法が便利, curvature の 2 次までは簡単に計算できる). ここでは, それとは別の方法で 有限温度の効果を one-loop effective potential の表式に導入した. 温度は言うまでもなくあらゆる相転移現象の中でも 重要なファクターである. 特に 初期宇宙で成立していたと考えられている超対称性は, 普通の対称性とは逆に有限温度では破れることが知られている.

有限温度 one-loop effective potential の表式は, 超対称な部分とそうでない部分に分けることによって, (effective mass)/(temperature) の全ての次数まで求めることができる (massless 理論の場合, effective mass ~ order parameter). 以下では, システムのうち ある有効質量 m を持つ部分の free energy (effective potential) を考える (全体の free energy は, それらの和で表わされる). Free energy の有限温度部分は, ボゾン 及び フェルミオン状態への斜影演算子 $P_{B,F} = (1 \pm (-)^F)/2$ を用いて, 次のように supersymmetric part $\beta F^{(B+F)}$ と non-supersymmetric part $\beta F^{(B-F)}$ に分けられる.

$$\begin{aligned}
\beta F_{\text{eff}} &= -\frac{1}{2} \int_0^\infty \frac{ds}{s} \text{Tr} \left[P_B e^{-s[(2n\pi/\beta)^2 + \vec{p}_{d-1}^2 + m^2]} + P_F e^{-s[((2n+1)\pi/\beta)^2 + \vec{p}_{d-1}^2 + m^2]} \right] \\
&= -\frac{1}{2} \int_0^\infty \frac{ds}{s} \frac{V_{d-1}}{(2\pi)^{d-1}} \left(\frac{\pi}{s}\right)^{\frac{d-1}{2}} \sum_{n=-\infty}^\infty \frac{1}{2} \left[(-)^n e^{-\frac{n^2 \pi^2 s}{\beta^2}} \text{tr} (-)^F \mathbb{I} + e^{-\frac{n^2 \pi^2 s}{\beta^2}} \text{tr} \mathbb{I} \right] e^{-sm^2} \\
&= -\frac{V_{d-1}}{4(4\pi)^{\frac{d-1}{2}}} \int_0^\infty ds s^{-\frac{d+1}{2}} e^{-sm^2} \left[\vartheta_4(0, e^{-\frac{\pi^2 s}{\beta^2}})(n_B + n_F) + \vartheta_3(0, e^{-\frac{\pi^2 s}{\beta^2}})(n_B - n_F) \right] \\
&\equiv \beta F^{(B+F)} + \beta F^{(B-F)}.
\end{aligned}$$

ここで, n_B 及び n_F は それぞれ ボゾン及びフェルミオンの物理的な (on-shell の) 自由度であり, d は時空間の次元である. これから楕円 theta 関数の数学的性質を用いてわかることは, supersymmetric

part $\beta F^{(B+F)}$ には発散はなく, non-supersymmetric part $\beta F^{(B-F)}$ のうちゼロ温度の部分

$$\beta F_{\beta=\infty}^{(B-F)} = -\frac{1}{2(4\pi)^{d/2}} (n_B - n_F) \beta V_{d-1} \int_{\epsilon}^{\infty} ds s^{-\frac{d+2}{2}} e^{-sm^2}$$

を除いた部分もまた収束する. 様々なテクニカルな手法を用いた結果, one-loop thermal effective potential の表式は

$$\begin{aligned} V_{eff}^{(\beta \neq \infty)} = & -\frac{1}{(4\pi)^{d/2}} \beta^{-d} \left[\frac{\Gamma(\frac{d}{2})}{\Gamma(1)} 2^d \zeta(d) [n_B + (1-2^{1-d})n_F] \right. \\ & - \frac{\Gamma(\frac{d}{2}-1)}{\Gamma(2)} 2^{d-2} \zeta(d-2) [n_B + (1-2^{3-d})n_F] (m\beta)^2 \\ & + \cdots + (-)^{\frac{d}{2}-1} \frac{\Gamma(1)}{\Gamma(\frac{d}{2})} 2^2 \zeta(2) [n_B + (1-2^{-1})n_F] (m\beta)^{d-2} \\ & + (-)^{\frac{d}{2}} \frac{\pi^{\frac{3}{2}}}{2\Gamma(\frac{d+1}{2})} n_B (m\beta)^{d-1} \\ & + (-)^{\frac{d}{2}} \frac{1}{2\Gamma(\frac{d}{2}+1)} (m\beta)^d \\ & \cdot [(n_B - n_F)(\log(m\beta)^2 + 2\gamma - 2\log \pi - z_{d/2}) - 4n_B \log 2] \\ & + \sum_{k=d/2+1}^{\infty} (-)^k \frac{\Gamma(k-\frac{d-1}{2})}{\Gamma(k+1)} \pi^{d-2k-\frac{1}{2}} \zeta(2k-d+1) \\ & \left. \cdot [2^{-2k+d} n_B - (2-2^{-2k+d}) n_F] (m\beta)^{2k} \right], \end{aligned}$$

となる. 奇妙な奇数次の項 $(m\beta)^{d-1}$ はボゾン部分から, いかにも one-loop potential といった感じの項 $(m\beta)^d \log(m\beta)^2$ は non-supersymmetric 部分からきていることが分かる. この有限温度部分の potential は, グラフを描いてみると $m\beta = 0$ のみにおいて極小値を持ち, $m\beta$ が大きくなるにしたがって負の方から 0 に指数関数的に近づく. 実際には, 更にゼロ温度の potential 即ち classical potential と Coleman-Weinberg potential(これは $n_B = n_F$ のとき消える) が加わり, 各有効質量 m に関して和をとったものが求める有効ポテンシャルの表式となる. (preprint OU-IIET 134)